

令和4年度(2022年度)

高校生交換留学促進事業報告書

High School Student Exchange Program 2022-2023

新 し い
自  分
始 ま る

令和5年(2023年)8月
北海道教育庁学校教育局高校教育課

Hokkaido Office of Education

Bureau of Administration and Policy

Educational Policy Division

はじめに

北海道教育委員会は、昭和 55 年に結ばれた北海道とカナダ・アルバータ州の姉妹提携を礎とし、平成 6 年度から、両地域における高校生の交換留学を行う「高校生交換留学促進事業」を実施しております。本事業は今年度で 29 回目となり、これまで 72 の道立高校等から 218 名の生徒が参加してきました。今回は、全道各地から 10 名の高校生が約 1 か月間留学し、大きく成長して本道に戻ってきました。

日本社会全体におけるグローバル化の進行、日本企業の海外進出あるいは外国企業の日本進出などにより、日常生活において外国人と関わる機会はより一層身近なものになってきています。高校生段階で海外留学を通じて異なる習慣・価値観に触れること、外国人と意思疎通を図ること、見知らぬ土地で多くの苦楽を経験することは、何事にも代えがたいものです。

今回の参加生徒に対するアンケートでは、9 名が「この経験を職業選択や進路選択に生かしたい」「この事業に参加して、国際社会に対する関心が高まった」と回答しています。

過去の参加生徒の中にも、本事業をきっかけに海外の大学や国内の外国語系大学へ進学した生徒がおりますが、多くの参加者が本事業を契機に、本道はもちろんのこと、国内外で大いに活躍されることを期待しております。

最後になりますが、生活習慣の違いに戸惑い、意思疎通に御苦労されながらも、異国の若者を温かく受け入れ、愛情を持って様々な経験の機会を創ってくださったホストファミリーの皆様、業務多忙な中で御尽力いただいた高等学校の教職員の皆様に心から感謝を申し上げます。

また、コロナ禍により 2 年間実施ができなかったこの事業が、派遣期間及び受入期間を 1 ヶ月間に短縮とはなりましたが、無事実施することができたことにつきましても、関係者皆様に厚く御礼申し上げます。

道教委では、引き続き本事業が、本道とアルバータ州との友好親善に寄与するとともに、本道の高校生に夢と目標を与える機会であり続けるよう努めてまいります。

令和 5 年（2023 年）年 8 月

北海道教育庁学校教育局

高校教育課長 相馬利幸

■留学生一覧

学年はアルバータ州派遣時

	学 校 名	学校所在地	学年	性別
1	北海道札幌月寒高等学校	札幌市	2	女
	Jasper Place HS	Edmonton	11	男
2	北海道札幌啓成高等学校	札幌市	1	女
	Harry Ainlay HS	Edmonton	10	女
3	北海道札幌手稲高等学校	札幌市	2	男
	Harry Ainlay HS	Edmonton	10	男
4	北海道札幌白石高等学校	札幌市	1	女
	Harry Ainlay HS	Edmonton	11	男
5	北海道札幌国際情報学校	札幌市	2	女
	Harry Ainlay HS	Edmonton	10	女
6	北海道千歳高等学校	千歳市	1	女
	Harry Ainlay HS	Edmonton	10	女
7	北海道北広島高等学校	北広島市	2	男
	Lindsay Thurber HS	Red Deer	11	男
8	北海道登別明日中等教育学校	登別市	4	男
	Paul Kane HS	St.Albert	10	男
9	北海道旭川東高等学校	旭川市	1	女
	Paul Kane HS	St.Albert	11	女
10	北海道釧路湖陵高等学校	釧路市	1	女
	Paul Kane HS	St.Albert	10	女

■事業実施日程

実 施 内 容	月 日
事前研修会 (オンライン)	令和4年12月23日(金)
↓ 本道留学生出発	令和5年2月25日(土)
本道引率教員による受入学校訪問	令和5年2月27日(月) ～3月3日(金)
↓ 本道留学生帰国	令和5年3月25日(土)
↓ アルバータ州留学生来道	令和5年4月15日(土)
アルバータ州引率教員による受入学校訪問	令和5年4月17日(月) ～21日(金)
↓ アルバータ州留学生離道	令和5年5月12日(金)

1 生徒編①
～カナダ渡航～

カナダ留学を終えて

北海道札幌月寒高等学校 2年

[きっかけ]

このプログラムを知った時一番に思ったことは「新しい自分を見つけられるかもしれない」でした。性格上自分を表に出す機会が少なく、殻に閉じこもってしまうことが多くあって退屈な日々を過ごしていました。もし留学が実現したら、日本とは考え方、環境、制度が全く違うカナダだからこそ良い刺激をうけ、生まれ変わることができるのではないかと思い応募をしました。



[ホストファミリー]

ホストファミリーはとても温かく迎えてくれて、家族の一員のように接してくれました。サマータイム制度が留学中に開始されたこと、ホストマザーやファザーが5時には帰ってくることに、朝シャワーをし、夜にお風呂に入るのは入りたいたいときだけなので夜が長く、一緒に映画を見たりカードゲームをしたり日本語を教えたりなど家族の団欒を大切にしているのが印象的でした。私がホームステイした地域はモールや商店街が車で10分のところにあり、そのほかにもエドモントンを代表する施設が近くにあったため、平日の放課後にパートナーの車で行ったり土日に少し遠出をしたり

などいろんなところに連れてってもらいました。異性パートナーだったこともあり、打ち解けるのに少し時間がかかりましたが、いろんなところと一緒にいたり私の趣味について話し合ったりしているうちに冗談を言い合ったり、悩みを聞いてもらったりと絆が徐々に深まっていきました。



[学校]



私が通っていた学校はエドモントンで一番生徒数が多い大きな学校でした。一日4ピリオド75分と日本の学校より授業数は少なく授業時間は長かったですが、最初の15分は先生の雑談や日本でいうホームルーム（学校からのお知らせ）をやるなどすぐに授業が始まるわけではなく、比較的のんびりしていました。私は最初日本語クラス、E S L（第二言語のための英語）、社会、ベーキングクラスの四つを選択していましたが、ベーキングクラスは他の三つとは違い、聞き取った英語を行動にうつ

さなければならなく、少し厳しいなと思い、担当の先生に相談し自習室で勉強する時間にしてもらいました。どのクラスも先生、生徒が温かく迎えてくれて、比較的簡単な英語で話してくれたのですぐに理解することができました。社会の授業は専門的な単語が多く理解するのに苦しみましたが、日本で習ったことの復習が多かったため、「あーパリ協定ね」とすぐに日本語に置き換えることができたので楽しくうけることができました。緑の服を着る「セントパトリックデー」、ウクライナへの募金活動の一環として行なった「パンケーキデー」など日本の学校より、イベントが多い印象でした。民族が多様な国だから、みんなの心を一つにしようという取組であっても全員参加ではなく、自主性が重んじられているように感じました。

[留学中に気付いたこと]

カナダの学校に行ってから気付いたことはいろんな人がいろんな格好をして、いろんな髪色があり、何が正解で何がダメなのかを気にする隙も与えないくらい個性豊かだったことです。足が太いからロングスカートを履こうとか目立ちたくないから髪は黒にしようとか、そう考えること自体無駄というか、変な言い方になりますが、「もうなんでもいいや、好きにしちゃえ」という気持ちになるくらい本当にいろんな人が自分の好きなスタイルで学校に来ていました。人種のサラダボウルと言われるカナダだからこそ、いろんな個性が受け入れられる環境に自然となっているのかなと思いました。

[私の変化]

私は最初受け答えが下手で、「Yes」か「No」だけで返事をしたり、頷くことしかできないでいました。しかしホストファミリーや友達の私の話や質問に対する反応を真似していくうちに、英語でも会話が弾むようになりました。反応の仕方を学んだということもありますが、私自体カナダという国に刺激され、性格が少し明るくなったのもあるかもしれません。学校ではいろんな人たちがいて、個性豊かだという話をしましたが、みんなに個性があるからこそ、その中から自分らしい色を出し、他の人より良い評価を得るということが難しくなっていることを感じました。だからこそ積極的に自分を表現しなければいけなく、そのような環境が私を社交的な性格に変えたのかもしれない。この留学の一番の目標「新しい自分を見つける」というのを達成できた瞬間でした。

[最後に]

この留学を通して、たくさん学び本当に貴重な体験をさせていただきました。カナダという国を直接経験できたことはインターネットなどで知り得た情報を超える言葉で言い表せないものでした。

このプログラムを再開してくれた北海道教育庁の皆様、引率の先生、ホストファミリー、同じプログラムに参加した北海道の仲間たち、そしてこのプログラムの参加を実現してくれたお母さん、お父さん、本当にありがとうございました。

「北海道・アルバータ州交換留学についての報告書」

北海道札幌啓成高等学校 1年

1, 留学のきっかけ

私がこの交換留学を申し込んだきっかけは、学校の先生がこのプログラムを紹介していただいたからです。私は中学校の頃から海外や留学に興味があり高校に入ったら交換留学をしたいと考えていました。そのため私は現在、札幌啓成高校にある国際アカデミーという活動に参加しています。国際アカデミーでは、インドやカナダの人と環境問題について話し合ったり、今後は共同調査を行う予定です。このチャンスを聞いたとき私は必ず参加したいと思いました。

2, 準備期間

パートナーとは、はじめは Gmail を使いお互いの趣味など自己紹介をしあいました。その後はインスタグラムをフォローしあいカナダに住むにともない持って行ったほうがいいもののアドバイスやカナダでの学校生活における注意事項などについて話をし、留学中もインスタグラムのチャットを使い位置情報を共有しあったりしました。

3, カナダでの生活

エドモントンの空港についた時、パートナーのお母さんが到着ゲートで私をバラの花束とともに暖かく迎えてくれました。自己紹介のあと車でホストファミリーの家に行き、おいしいネパール料理を用意してくれました。

最初の数日間は家の周辺を散歩したりし、ゆったりと過ごしました。

月曜日は祝日であったため火曜日に初めて交換留学先の学校である、「HARRY AINLAY」にバスにのり登校しました。1日目はパートナーのシャドーイング（同じ授業を受けること）をしましたが、私のパートナーはフランス語での授業を選択しているため内容が全く分かりませんでした。そして2日目からは、自分の選択した授業を受け始めました。ESL では、京都からの留学生や、中国、韓国、フランス、アフリカから来た生徒がいました。そのクラスのみならずとても暖かく歓迎してくれ、すぐに打ち解けることができました。

数学のクラスでは、日本と違い電卓を多用したり、テスト中は公式がプリントされている紙が一人ひとり用意されており、それを見ながらテストの問題を解くという形になっていました。また、カナダではテスト中の時間制限があまり厳しくなく、自分に合ったペースで問題を解くことができました。私は、カナダの数学では暗記よりも、どれだけ自分の記憶以外のものを活用し、答えを導きだすことができるかを重視しているように感じました。

その他にも、私は受けることができませんでしたが、お化粧品についてのクラスや自動車の整備方法について学べるクラス、コンピューターデザインについてのクラスなどもあり、自分の特技を伸ばしたり、将来なりたい夢に向かって自分を成長させることができるようなクラスがとても多くありました。

学校以外では、週末にパートナーと一緒に留学してきた北海道からの仲間とそのパートナーの人々とウエストンエドモントンモールへいたり、スキーやスケートを楽しみました。私がいった高校には「友達会」という日本に興味がある生徒が行っているクラブがあり、そ

の人たちとは放課後パンケーキを食べにいたり、IKEA でかくれんぼをしたり、体育館を貸し出してバスケットをしたりと、とても楽しい時間を過ごすことができました。

その他にも週末をつかいカルガリー、バンフ、ジャスパーを訪れる二泊三日の小旅行にもいきました。その旅行ではロッキー山脈を見ることができました。



4. カナダの生活を通して

カナダでの一か月間の生活を通じ、私は日本では経験することができない様々なことを経験することができました。はじめは、自分の伝えたいことをよく伝えることができなく少し不安になりましたが、日を越すごとに自分の知っている単語でどのように自分のいいたいことを伝えることができるかを考えられるようになり、最初よりはコミュニケーションをとりやすくなりました。

そして学校に通うことで、国籍、宗教、文化の違う多くの人々と会い、話すことができ、お互いの違いを尊重しあう社会をみることができました。

5. 今後

この留学を通じて私は更に海外に興味があき、多民族が共生している国へ住みたいという気持ちが大きくなりました。この目標に向かい、英語の勉強に力を入れ瞬時に自分の伝えたいことが英語で言えるような勉強も必要だと強く感じました。

来月にはエドモントンからパートナーが北海道に来ます。日本の学校や日常生活で可能な限り様々なことを紹介できるように頑張ります。そして、日本についてより多くの興味を持ってもらいたいです。日本の学校での授業を英語で説明するのはとても難しいと思うので、今から説明をする練習を始めたいと思います。

カナダでできた友達とはネット上で会話を続け、将来絶対にまたカナダを訪れたいです！

カナダでの生活で感じたこと

北海道札幌手稲高等学校 2年

今回私はカナダのアルバータ州にあるエドモントンという場所に1ヶ月留学させていただきました。カナダでの暮らしや文化の違いなど僕の思い出と一緒に書かせていただこうと思います。

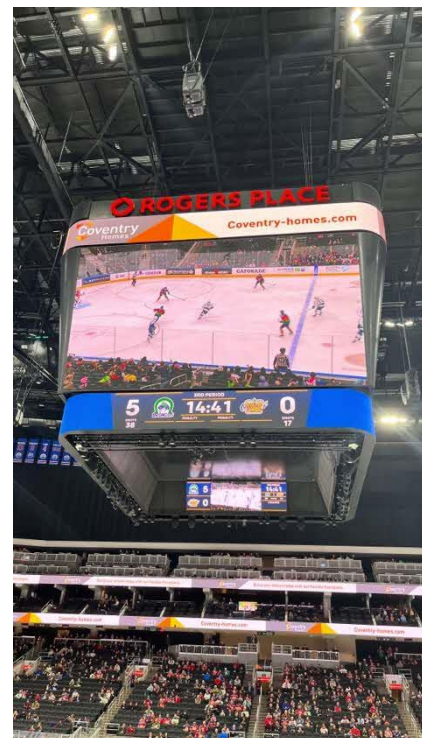
カナダで生活していて一番驚いたというか新鮮だったことは、さまざまな人種の人たちがいることです。そもそも日本で暮らしていると普段の生活でなかなか日本人以外を見かける機会が少ないと思うのですが、カナダは移民の国と言われることもあって、さまざまな人と出会える機会がたくさんあります。私も学校でたくさん友達を作ることができました。

私が1ヶ月お世話になった Harry Ainlay high school はエドモントンで一番大きい学校で生徒数はなんと二千人を超えます。まず校舎の形が日本と違って、2階がありませんでした。カナダの面積は広いので敷地をたくさん使えることが理由なのかなと思います。

授業はいろんな教科があり例えば、数学・社会などの基礎教科と言われるものに加えて料理・金属工芸・ジムクラスなどといったものがありました。私はギター・体育・社会・英語の4教科を受けました。各教科移動教室でまた決まった席もなく自由に座れることができました。学校生活で一番驚いたことは授業態度の違いです。日本だと授業中食事はできませんし、スマホを触るなどもってのほかだったりすることが多いと思うのですが、それが全く違って、授業中お菓子を食べても注意されませんし、スマホを触ったり音楽を聴いたりしても何も言われません。しかし、うるさくしたりやらなければいけないことをやらないで違うことをしていると先生に注意されるので、他の人に迷惑がかかることをしなかったり自分のタスクをきちんとこなささえしていれば大抵のことはできるんだと思います。日本の学校と比べて思ったことは、日本はクラス全体の意識を重要視する傾向でカナダは個々が何をしているかに重きを置いているのではないかなということです。どちらが良くてどちらが悪いなどと優劣をつけるつもりはありませんが、私の感覚としてはカナダの学校生活は自由が尊重されている気がして楽しかったです。

普段カナダの学生は何を友達と会話しているのか聞いてみたところ、日本と大して変わりませんでした。例えば、ゲームの話であったり学校終わりどこか行かない?といった内容でした。しかし、スポーツの話になるとホッケーの話しかしないという印象が強かったです。聞いてみたところスポーツに興味がない人でもホッケーの話だけはわかったりするようにカナダの国民の98%はホッケーファンだといっていました。カナダではホッケーは国民的スポーツみたいです。

次にカナダの食文化について書きたいと思います。カナダにはいろんな国のレストランがあります。カナダは移民の国ですから、様々な専門店や料理店が至る所にあります。それでもカナダで一番人



気で有名な食べ物がプーティンです。ポテトフライの上にチーズとグレイビーソースをかけた食べ物なのですがこれがすごく美味しかったです。人によって意外と好き嫌いは分かれやすい食べ物だとは思いますが、日本で食べることができないので、もしカナダに行く機会があったらマストで食べるべきだと思います。



スイーツだとシナモンロールがおすすめです。めちゃくちゃ甘くて美味しいのでこれもぜひ食べてほしいです。多分日本でも食べられると思います。あと、カナダのマクドナルドに行って驚いたことが、バーガーが甘かったことです。朝マックで頼んだバーガーのパン？の部分甘くて、友達に聞いたところわざと甘くなっているそうです。マクドナルドでも日本と違うところがあって驚きました。

カナダに行って帰ってきて一番最初に思ったことはめちゃくちゃ楽しかった！ということです。正直1ヶ月じゃ全然足りません。幸い？ホームシックにもならずカナダで生活できてとてもいい体験ができたとおもいます。もしどこか留学に行きたくてどうしようか迷っているという人がいるならば私はぜひ行くべきだと言いたいです。当時の私の英語力は英検準2級程度で特別英語が喋れるというわけでもなかったですが、カナダの人たちは親切ですし頑張ればなんとかなります（笑）。留学に行った経験は絶対何かの役に立つ素晴らしいことだと私は思うから、これから行こうと思っている人はガンバレ！

留学報告書

北海道札幌白石高等学校 1年

きっかけは担任の先生にカナダに交換留学できるプログラムがあるよと教えてもらったことです。中学の頃から英語が好きで留学にはいつか行ってみたいという思いがあったので応募してみようと決めました。書類選考と面接を終えてしばらく経ち、合格したと知ったときはとても嬉しかったです。

ジョシュアがパートナーになると決まり、連絡を取り始めました。ジョシュアのお母さんの提案でビデオ通話をしてお互いの家のルームツアーをしました。行く前にホストファミリーの顔を見ることができて少し不安が和らぎました。

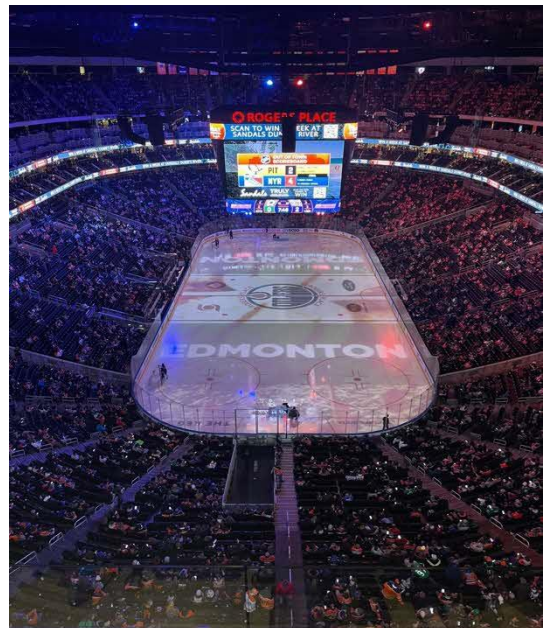
ついにカナダへ行く日になり、空港へ見送りに来てくれた人たちにお別れを言い飛行機に乗りました。初めての海外なので緊張して飛行機ではなかなか寝られなかったです。エドモントンの空港に着くとホストファミリーがウェルカムボードを持ってあたたかく歓迎してくれました。

【カナダでの生活】

カナダに着いてからは時差ボケがあり最初の5日間は夜なかなか寝られなくて、日中眠くなるのが大変でした。ホストファミリーはとても親切で、私が困っていることがないか常に気にかけてくれました。ホストマザーとファザーは私と話すときはゆっくり話してくれました。さらに英語のことわざやジョークなど色々なことを教えてくれました。休日にはバンフやアイスホッケーの試合など色々なところに連れて行ってもらいました。アイスホッケーの試合は初めて見ました。かなり迫力があり、沢山の人が Oilers というチームの帽子や服を身に着けていました。

カナダでは何気ないところで国旗やメープルリーフのマークを見かけることが多いと感じました。見かけるたびにカナダにいるという実感がして嬉しかったです。

家では晩御飯の後にボードゲームをしたり、外国のショーを見たりして過ごしました。ポ



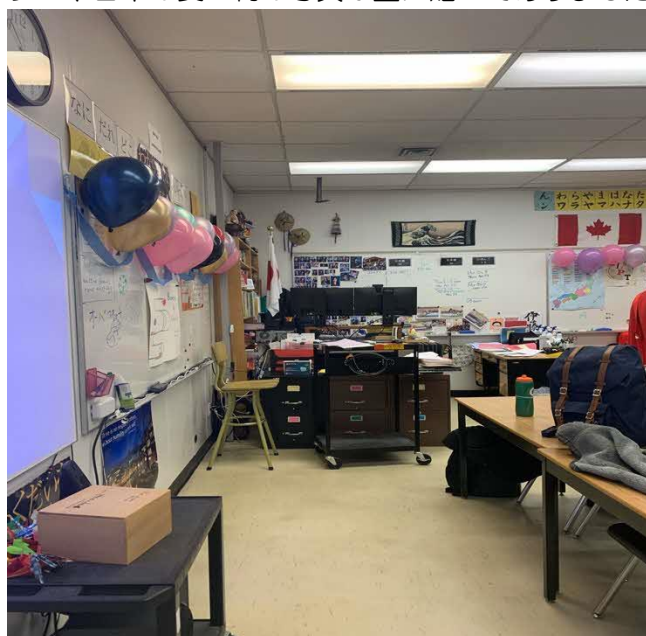
ードゲームは色々なものを使ったけど、毎回ちゃんと説明してくれてはやく理解することができました。ショーは英語字幕をつけてくれて、時々解説もしてくれたので見るのが楽しかったです。カナダはカナダ特有の料理といったようなものはあまりなく、色々な国のものをホストマザーが作ってくれました。ギリシャや韓国など色々な料理が楽しめていいなと思いました。

私が帰国する時、ホストファザーが版画で作った景色の絵をくれてとても嬉しかったです。それを見るとカナダのホストファミリーを思い出して、恋しくなってしまいます。

・学校

初日の一時間目はパートナーが受けている日本語の授業を見学のような形で受けました。そこではパートナーのサポートもあり、色々な人と話すことができました。がんばって日本語で話しかけてくれる人もいました。その日は日本語を喋るテストがあったみたいで、友達同士で確かめ合いながら練習していてとても楽しそうでした。

校舎はとても広くて、それぞれの教室に個性がありました。日本語の教室はアニメのポスターや日本の食べ物の写真が壁に貼ってありました。他にも、国旗が飾ってある教室や、電



気が消してあってキャンドルがたくさん灯っている教室もありました。図書館は広くて、勉強スペースが充実していて、漫画などもたくさんありました。私が通った Harry Ainlay 高校は選択授業の種類が豊富で、リーダーシップ、料理、ギター、デジタルデザイン、ファッション、コスメなどがあります。自分の興味がある授業を受けることができるのがすごく良いなと思いました。授業は一日四コマで一コマ75分です。授業と授業の間の移動時間が5分くらいしかないのだからかなり急いで移動しなければいけませんでした。私は English Language Arts

(英語), Social Studies (社会), Physical Education (体育), Mathematics (数学)を受けました。二日目から本格的に学校が始まり、朝にパートナーが私が授業を受ける教室に案内してくれました。最初の五日間くらいは校舎が広すぎて教室を覚えるのが大変でした。体育ではバレー、サッカー、ハンドボールなどをしました。曲がかかっている楽しい雰囲気プレイすることができました。私の滞在中の3月14日はパイの日でした。数学の先生が π という文字の書いてある服を着て楽しそうに Tim Hortons のドーナツを配っていて、カナダの学校の自由を感じました。さらに、3月17日は St. Patrick's Day というキリスト教のお祝いごとがありました。その日は緑の服を着たり、緑色の食べ物を食べたりしてお祝いするのだとホストマザーが教えてくれました。その日の学校では緑色のものを身に着けている人が多かったです。学校には色々な国の人がいて、ファッションや髪型などが他の人と違うのが当たり前なのでみな個性が出ていてとても面白かったです。

学校では日本に興味がある人が集った友達会という20人ほどのグループが北海道からの留学生へ様々な活動を企画してくれました。体育館でスポーツをしたり、歓迎パーティを開い

てくれたりしました。私は高校で友だちができるかとても不安だったので、この友達会には
すごく助けられました。その友達会で仲良くなった女の子と遊んだり、一緒に料理したり楽
しい時間を過ごすことができました。



エドモントンでの充実した1ヶ月

北海道札幌国際情報高等学校 2年

私は中学生の時にアメリカから留学生を受け入れたことがあり、その留学生が日本語はもちろん日本の文化や習慣を楽しみながら学んでいる姿を間近で見て、次は自分も留学に挑戦してみたいと思っていました。このプログラムが学校で紹介されたとき、自分が留学するだけでなく留学生の受け入れもできるので2回も英語力を鍛えるチャンスがあると感じ、思い切って応募しました。

面接をして数週間後、合格通知と先生からパートナーの情報が書かれた書類をもらった時は嬉しさでいっぱいでした。その書類を読んでいくとパートナーが住んでいる都市がエドモントンだと分かりました。私の担任の先生は昔エドモントンに住んでいたことがあり、そこでの生活についての話をよく聞いていました。その話を聞いてカナダに魅力を感じたこともこのプログラムに応募した1つの理由です。なので、実際にその場所で1ヶ月間生活できるということも嬉しかったです。

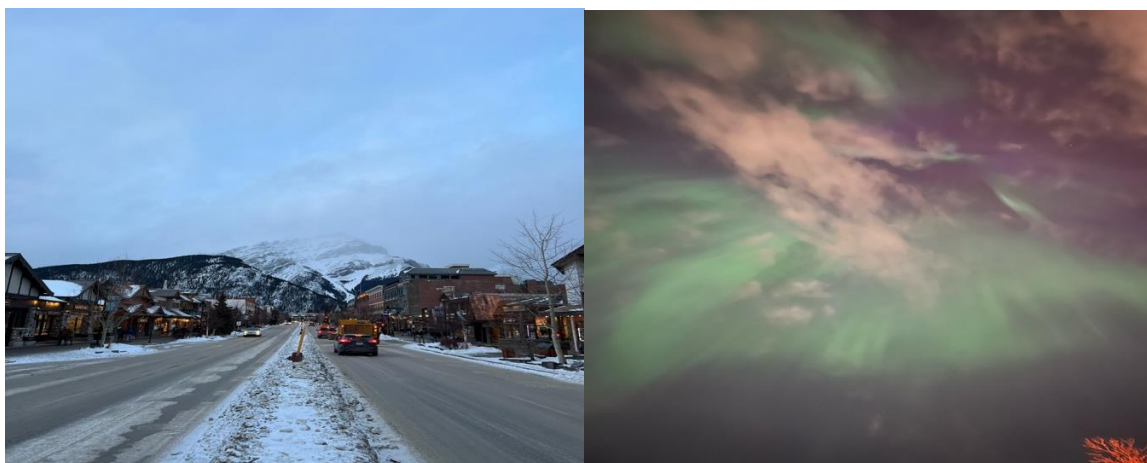
出発の日ドキドキしながら空港へ向かい、空港に着いて初めて一緒に留学に行く仲間たち10人と対面で会うことができました。札幌からエドモントンまでは約25時間かかりましたが、その移動時間を通して仲間たちとは飛行機の中で英会話の勉強をしたりして仲を深められました。

バンクーバーからエドモントンへ向かう飛行機の中ではパートナーにやっと会えるという喜びと緊張が入り混じっていました。エドモントン空港に着くとパートナーとその家族が温かく迎え入れてくれてとても安心しました。空港からパートナーの家に向かうとき、道路や建物の敷地がとても大きくてびっくりしました。車の窓から日本とは全く違う景色を見て「本当にカナダに来たんだ」とはっきり実感しました。

到着から2日経つといよいよカナダでの学校生活が始まりました。私が通ったHarry Ainlay高校は全校生徒が3000人を超えていて校舎がとても広く、どの廊下を歩いてもたくさんの生徒がいました。初日はパートナーの授業についていったのですが先生が話すスピードがとても早く授業内容を理解するのが難しかったです。その次の日からは自分の授業が決まり私はESL（英語）、社会、音楽、リーダーシップを受けました。日本にはないユニークな授業がいろいろあってすごく刺激的でした。特にリーダーシップの授業は受ける前、どのようなことを学ぶのか全く想像が付きませんでした。実際に受けてみると学校内のボランティア活動をしたり「Remember The Titans」という映画を見てより良いリーダーになる研究をしたりと毎回楽しかったです。なので私の一番お気に入りの授業になりました。どの授業に行っても必ず私に話しかけて手助けをしてくれて人がいて、カナダ人のフレンドリーさを感じました。また、この高校には日本人との交流を企画・運営する「Tomodachikai club」というクラブがありました。このクラブの生徒たちは放課後にウェルカムパーティーやフェアウェルパーティーはもちろん、バスケット大会を開いてくれたりパンケーキのお店に連れて行ってくれたりカナダの生徒と関わる機会を作ってくれました。そのおかげでたくさん友達ができました。みんな日本が大好きで、日本の音楽を聴いたり漫画を読んだりしてとても嬉しかったです。日本の大学に進学したいと言っていた人もいました。

週末はホストファミリーとバンフヘスキーに行ったり、カルガリーへ旅行したりなどエドモントン市外にもたくさんの場所に連れて行ってくれました。その中でカナダのグルメや自

然を満喫することができました。カナダには世界各国からの移民が住んでいるので様々な国のレストランがあり、カナダ以外にもいろいろな国の郷土料理を食べることができました。どれもとても美味しかったです。そして、カナダの自然はバンフの山はカナディアンロッキーということもあり迫力があってとても綺麗でした。留学最後の日には幸運なことにたまたま綺麗なオーロラを見ることもできました。カナダの大自然の中文化にもたくさん触れることができて貴重な体験をさせてもらいました。



このように、平日も休日も優しいカナディアンに囲まれて楽しく充実した時間を送ることができました。最初は正直自分の英語が伝わるかどうか、授業についていけるかどうか、友達ができるかなど不安なことも多かったです。ですがパートナー一家をはじめ、優しい友達や先生にも恵まれて毎日楽しいカナダ生活を送れました。授業も日を重ねて慣れていくとだんだん理解できるようになりました。

この留学を通して、まず一番に積極的に行動できるようになったと思います。それは、留学中に伝わるかどうか分からないこともまずは積極的に伝えてみることを意識したからだと思います。それによって人との距離が縮められていろいろな人と仲良くなることができました。

また、カナダの人も積極性が強い人が多いと感じました。言いたいことはしっかり言う、したいと思ったことがあればすぐに行動に移すという姿勢は本当にかっこよかったです。4月からはパートナーが日本に来てくれるのでたくさん日本の魅力を伝えて一緒に楽しい時間を過ごしたいです。

このような何にも変え難い貴重な経験をさせていただきサポートしてくださった皆様、本当にありがとうございました。

カナダでの経験

北海道千歳高等学校 1年

〈きっかけ〉

私がこのプログラムに参加しようと思ったきっかけは、新しいことをしてみたかったからです。留学では様々な新しい経験ができると思います。自分の国では見れない街並みや自然を見たり、留学先での学校生活、ホームステイ先での生活、人々との交流など、とても興味がありました。それと、お母さんがカナダに留学したことがあり、いろいろカナダでの出来事を聞かせてくれてとても楽しそうだなと思っていました。これらのきっかけで参加しようと思いました。

〈ホームステイ先での生活〉

ホームステイ先に着いた後すぐに夕食を食べました。飛行機はどうだった？などいろいろホストファミリーが話しかけてくれました。私のパートナーはリリーという子でお父さん、お母さん、弟の4人家族です。とても優しい方たちでした。家にはマフィという子犬もいました。とても可愛かったです。私の家でも子犬を飼ってますが、マフィが代わりみたいな存在になってくれて寂しさがあまりなかったけど、やっぱり少し寂しかったです。朝ごはんは、シリアルに牛乳をかけて食べてました。昼ごはんは自分でサンドイッチを作って行って行っていました。シリアルが美味しすぎて同じシリアルをスーパーで買って家に持って帰りました。たまにリリーの家族とファミリールームで映画を見たりリリーとアニメを見たりしました。私はあんまりアニメを見ないけど、リリーと見て面白くて、帰ってきてからもいろんなアニメを見えています。

リリーはサッカーをしているので、その試合を見にいったり、リリーの弟のホッケーの試合も見に行ったりしました。ホッケーは初めてみるし、カナダではホッケーがいちばんのスポーツなので見れて嬉しかったです。洗濯は週に一回でした。家の中がとても広くて。お風呂も2つあり、トイレも3個ぐらいありました。ベッドがとても大きくて心地よかったです。主にバスと電車を使って登下校して行きました。駅にモールがありそこによく寄り道して、バブルティーを飲んだりお菓子を買ったりして行きました。ウエストエドモントンモールにも行きました。とても大きくてプールや長いウォータースライダーもあり、遊園地みたいなものもありました。服屋さん可愛くて自分の好みの服がたくさん売って行きました。私がカナダで1番好きだった食べ物はプーティンです。ニューヨークフライズというところのプーティンがとても美味しくて、色々な味を1ヶ月間で試しました。

〈カナダでの学校生活〉

私は Harry Ainlay 高校というところに行きました。色々な国の人たちがいる高校でした。毎日4時間授業で私の受けた授業は ESL、カナダの歴史、数学、アートです。私は毎日同じ授業でしたが、そこに通ってる子は A と B の2つの時間割があり、それが毎日交互になっています。校舎内はとても広くて、最初の頃はとても迷って行きました。教室ごとに番号がついていて、天井に番号ごとに矢印が書いてあってそれに従いながら自分の教室に行っていました。教室には窓がなく、ドアが自動ロックで中からは開けられるけど外からは開けられないようになっています。玄関のドアも同じです。それは設定を外したら外からでも外せるようになっていて先生が場面に応じて変えています。トイレは結構いろんなところがあって、1

つの場所にだいたい 4~5 個くらいあります。トイレの間が結構大きかったです。ATM も何ヶ所かにありました。自販機のレモネードがとても好きで毎日のように飲んでいました。自販機の水とかほとんどが 590ml で大きかったです。お昼ご飯は売店にいたり色々な教室で食べたりしました。たまに、学校の中心にある広場みたいなところでちょっとしたゲームや、民族の方達が来てダンスとかをしたりしていてとても賑やかでした。次の授業の時間になる時、毎回音楽がなりもう始まるよと教えてくれます。私はアートが 1 番好きでした。グレープフルーツを大きなキャンバスに描いたり、アコーディオンブックを作りました。アートの教室の近くになると壁に絵が描かれていたりいろいろな作品が飾ってあってすごかったです。カナダの歴史も受けられてとてもよかったと思っています。おかげで、カナダのいろいろなことについて学べました。学校には友達会というものがあり日本語教室で行っていて、私たち日本人留学生の 5 人を迎えてくれました。パーティーを何回か開いてくれて、ピザやお菓子、プレゼントをたくさん用意してくれました。自分のクラスの先生方や友達会のみんなからのメッセージカードもくれました。カナダでの学校生活が楽しいと感じられたのは友達会のおかげでもあるのでとても感謝しています。カナダの高校のいいなと思ったところは、自分の伸ばしたい分野を徹底的に伸ばせるということです。日本と違って授業がほとんど毎回同じで、1 つの授業も時間が長く、それも自分で選べるので得意なことや頑張りたいことをより伸ばすことができますと思います。イベントにも力を入れていて、定期的にスポーツや学校行事がありとても楽しかったです。

〈カナダの公共交通機関〉

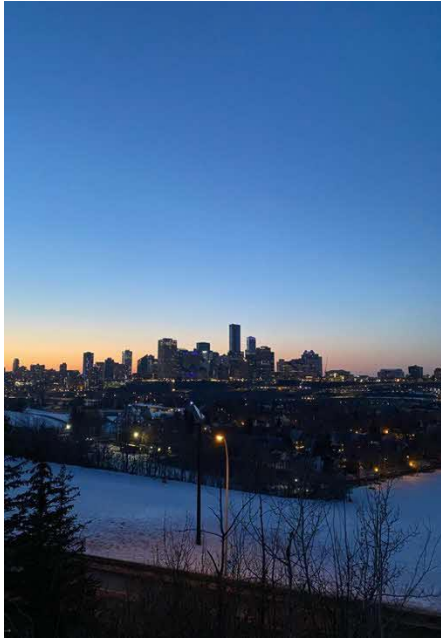
電車はお金が入りませんでした。バスは 1 ヶ月定期みたいなものを、乗るたびに運転手さんに見せて乗っていました。降りたい時の知らせ方がボタンではなく、黄色いひもで、それを引くと音が鳴り次のバス停で降りたいと知らせてくれます。初めての体験で面白かったです。

〈カナダの自然〉

バス停まで歩いてく時、リスとウサギを見ました。リスは日本でも何回か見かけるけど、ウサギが道端で見れるのは思ってもいなかったのがびっくりしました。普通の大きさで白くて綺麗なウサギでした。リリーは結構近所で見かけるよと行っていました。ハリネズミみたいな動物もよく見られるらしいです。

リリーとリリーのお母さんと 3 人でバンフに行きました。とても山が近くて大きくて綺麗でした。バンフの街並みもすごく綺麗で、たくさんのフード店やお土産屋さんが並んでいました。

日本に帰る 2 日前くらいに眺めのいい場所に連れて行ってくれました。街の灯りがとても綺麗で今までに見た中で 1 番綺麗な景色でした。



〈最後に〉

このプログラムに参加して本当にいろいろな経験ができ、たくさんの方たちに会えました。カナダの良さもたくさん知れました。自分の英語力も伸びたと感じています。この留学で身につけた力を将来に役立てるように頑張ろうと思います。たくさんの方たちのおかげで、このプログラムに参加でき、カナダでの生活も楽しいものにできました。本当にありがとうございました。

留学報告書

北海道北広島高等学校 2年

#きっかけ

小学校のときに行ったハワイで本物の英語に触れ、英語や英語独特の表現の面白さに気づき、自分も英語を扱えるような人物になりたいと思った。また日本ではなかなか英語を話す機会が得られないので、自らを英語しか通じない環境に置きたいと思った。

#カナダでの1ヶ月間

カナダの高校は日本の大学のようで、私が短期留学をさせてもらったリンジーサーバーコンプリヘンシブ高校は一コマ73分と一般的な日本の高校より授業時間が長い。また服装は私服で、持ち込み自由という自由な校風。お昼には学校の中にあるカフェテリアでご飯を食べることもできる。日本と違い文系理系の概念がないため授業の選択の幅が広い。授業ごとにクラスメイトも違う。日本にもカナダにも学年はあるが、カナダでは違う学年の生徒と一緒に同じ授業を受けるということが普通にある。しかし実際にカナダに行って、カナダ人は年齢を気にすることが少なく、上下関係が厳しくないことがわかった。そのため、違う年齢の生徒でも友達のように接している。また日本より授業中の失敗を恐れていないように感じた。ホワイトボードの情報が間違っていると思ったときは、積極的に手を挙げ質問する。たとえその情報が間違っていなくても、教師はその問題をもう一度解説し、勇気を持って指摘しようとしてくれたことを褒めてくれる。他の生徒ももちろんばかにしたり笑ったりしない。そのため、生徒も恥ずかしいとは思わず、もっと主体的に授業に参加したいと思える。

授業だけに限らず、カナダ人は何か失敗したときでも、挑戦したという事実をみんなで褒め合っていた。だから私には、カナダ人には自信家が多いように見えた。

私は留学に行くまでカナダの差別について心配していた。ニュースや動画サイトなどで、黒人やイスラム人、アジア人が差別される動画やニュースをよくみる。そのため、もし自分が差別を受けたらどうしようかと不安に思うこともあった。しかし自分が見たり聞いたりした限りでは、カナダで差別的な言動はなかった。授業ではさまざまな人種の生徒が協力して何かを成し遂げたり、和気藹々とスポーツを楽しんだりしていた。アジア系の友人には、白人の彼女がいた。あまりにも自分の想像と違く驚いた。調べてみるとカナダは移民の国で、さまざまな人種の人々が混在するから差別が少ないらしい。

#カナダ人は何が好きか

カナダではアイスホッケーが大人気。日本での野球と同じかそれ以上の人気がある。エドモントンにはホストファミリー、そして自分がファンになったエドモントンオイラーズというチームがある。試合の日には近くのホテルの従業員はオイラーズのユニフォームを着ている。スタジアムの周りはオイラーズ一色に染まっていて、ファンはそんな街並みを楽しむことができる。北広島高校の横にも新しい北海道日本ハムファイターズの球場であるエスコンフィールド北海道ができたが、全く雰囲気が違う。試合観戦も少し日本とは違う。観客を楽しませる工夫がとても面白かった。例えば休憩時間には、上からスポンサーのピザが降ってきたり、バズーカーでオイラーズのオリジナルTシャツを撃ち出してプレゼントしたりする。あまり日本のスポーツ観戦では見られない光景で新鮮だった。試合中の観客の感情は激しく変わる。惜しいシュートがあると両手を頭に当てて口を大きくあける。相手チームにファー

ルされるとブーイングをする。そして何よりゴールが決まると立ち上がり、友達や家族や、ときには全く知らない人とも喜びを分かち合い、ハイタッチしたりする。日本でも一部のファンは立ち上がったが、カナダではほぼ全員が立ち上がってみんなで歌を歌う。アイスホッケーはとてもアグレッシブなスポーツだ。選手同士は激しくぶつかり合うし、パックというボールのようなものは目で追えないほど速い。カナダで大人気のウィンタースポーツは人々を熱くさせてくれる。

#最後に

もともと英語が得意教科で好きだったが、今回の留学を通じて、英語が話せると世界が広がるということがとてもよくわかった。まだまだ英語でのコミュニケーションは完璧ではない。それでも多くのカナダ人はなんとか意見を伝えようとしてくれたし、私の考えを理解しようとしてくれた。慣れない場所で困っていると必ず誰かが声をかけてくれた。友人もたくさんできた。だからこの留学を機に自分の英語力をさらに上げていき、もっとスムーズに人と英語で話せるようになりたい。今回のプログラムはコロナ禍という大変な時期に、たくさんの方の協力で行うことができ、非常に貴重な経験をさせてもらうことができた。このことに深く感謝しながら、今後の進路や将来に繋げていきたい。

愛しきアルバータでの日々

北海道登別明日中等教育学校 4年

(応募時)

私が応募する以前から、留学している友人たちがいました。彼らが日々、異国での近況を教えてくれていたので、私は海外への憧れが強くなっていました。また、私のクラスメイトで、インドからの留学生がいました。彼が毎日、日本で奮闘し、さまざまなことを学んでいる姿を見て、彼のように、母国から離れた場所で、新たなことを発見したいと思うようになりました。そんな時に、この留学事業を知りました。

当時は学校の体育祭が間近に控えており、私は生徒会の一員として様々な準備をしていました。それに加えて、応募のために多くの書類を提出するということをしなければならなかったため、当時はかなりつらかったです。それでもめげずに、応募にこぎつけることが出来て本当に良かったです。何ごとでも、夢を叶えるチャンスである時は、自分の全力を尽くすべきです。

(カナダ出発前)

留学が決定したお知らせとともに、受入先のメールアドレスが分かったので、早速メールを送ってみました。初めてメールを送る時は緊張しましたが、返信がとても温かな言葉で、ほっとしました。それからお互い、それぞれのペースで連絡をするようになりました。お互いの好きなことや、学校での事情などを共有できました。連絡を行うことは、出発前にはとても大事なことです。

また、同じく北海道から派遣される参加者にも声かけを次々に行い、実際に出会った時に会話の輪ができるように図りました。準備などで悩んでいることを共有したり相談したりし、豊かなコミュニケーションができるようになりました。

(授業)

私が通ったポールケイン高校は、数か月前に新校舎が完成したばかりで、とてもきれいな校舎でした。生徒数は1700人ほどです。

大学のように、自分が受ける授業を完全に選択できる制度で、日本のように学級はありません。Day AとDay Bの2種類があり、私の場合、Day Aはフィットネス、法律学、リーダーシップ、ESL（北海道からの留学生同士で受ける授業）、Day Bはフィットネス、心理学、リーダーシップ、グラフィックアート、という授業順でした。授業開始は8:00、授業終了は14:30（水曜は12:50）と、私の登別明日よりも、やや開始と終了の時刻が早かったです。

初めは誰かに話しかけるのに勇気がいりましたが、いざ話しかけると優しく接してくれました。物怖じすることなく、話しかけることが重要です。そうすることで、友達は着実に増えていきます。また、授業で出来た友達と連絡先を交換したり、写真を撮ったりするなどして、次第に名前を覚えていきました。

授業で配られるプリントはもちろんすべて英語です。その文章を理解することがとても難しかったです。時間をかけつつ文章を読み、意味を考え、そして、スマホの翻訳アプリを使って、自分が考えた意味との答え合わせをするということを繰り返しました。初めは大変でしたが、次第に、より短い時間で文章を読み、質問に答えられるようになっていきました。

ですが、分からない単語があまりに多かったので、英単語の語彙を今後しっかりと身につけていきたいと感じました。

このように、授業について色々と書きましたが、一番大事なのは勇気と英語力です。どんな環境でも立ち向かう勇気、授業や会話についていくことができる英語力。この二つを留学前から鍛えていくべきです。そして、留学を終えた私も、この二つをもっと伸ばしていきたいです。

（放課後や休日）

ある週末は、ジャスパーへ行きました。ジャスパーはロッキー山脈の山々に囲まれた街です。私はここの山でスキーをしました。その大きなスケールに吞まれ、ひたすら驚きと感動の中で、銀色の世界を滑りました。光の柱が見える「サンピラー現象」を目にすることもできたので、とても記憶に残る旅となりました。

また、他の週末はバンフへ訪れました。バンフでは犬ぞりを体験しました。森の中や、凍った湖の上を、犬たちとともに駆け抜ける中で、険しく、美しくそびえる山々や、エメラルドグリーンに輝く川を見て、パートナーと感動を分かち合いました。その際、パートナーは日本語で感動を表してくれて、美しいものを日本語で共有できたことがとてもうれしかったです。異国の人と会話ができる喜びはここにあります。どのような国籍の人が相手でも、何かに感動した時は、互いの母国語で喜びを表すと、心がぐっと近づくのかもしれない。

（友達）

私のパートナーには、いつも行動をともにする友達がいます。ランチも、遊びも、いつも彼らと一緒にです。私はそんな彼らとすぐに仲良くなり、毎日積極的に話しました。その中で、いつも陽気で、明るい笑顔を見せる友達がいました。その友達と話す、私の心までもが明るくなり、そして笑顔になりました。そんな風に、私も日本で、笑顔でポジティブでありたいと思いました。

（最後に）

今回の留学がとても楽しかったと思えたのは、やはりカナダの友達、先生、そしてホストファミリーのおかげでした。私もカナダの友達や先生のように、私の学校で留学生が授業で戸惑っているときに、手を差し伸べられる人になりたいです。そして、スキーや犬ぞり、アイスホッケー観戦など、様々な体験をさせてくれたホストファミリーへの感謝は一生尽きません。

これから留学へ行く人には、そのような経験をさせてくれる全ての人への感謝を忘れてほしくないと思います。そして、短い時間の中でも全力で楽しむ心を持って、留学へ行ってほしいです。

最後にもう一度、みんな、ありがとう！！

念願のカナダ留学

北海道旭川東高等学校 1年

きっかけ

小学校の頃に参加したイングリッシュキャンプで国際交流の楽しさを体験し、英語を学び、留学に行きたいとずっと思っていました。しかし、新型コロナウイルスの影響ですべての留学プログラムが中止され、オンラインの交流会には参加しましたが直接留学に行くチャンスはありませんでした。そんな中この交換留学の案内を見たとき、ついにチャンスがきたと思い、すぐに参加を決めました。

Paul Kane high school での学校生活

初めて登校した日の衝撃はいまでも忘れません。すごくきれいな校舎でまだ建て替えられて1ヶ月ほどでした。なかに入るともちろん英語がたくさん飛び交い、いろいろな人種の人が出て、それぞれ思い思いに過ごしています。服装やメイク、アクセサリ、タトゥーなどなんでも自由です。みんな個性を持ち、自分を表現していました

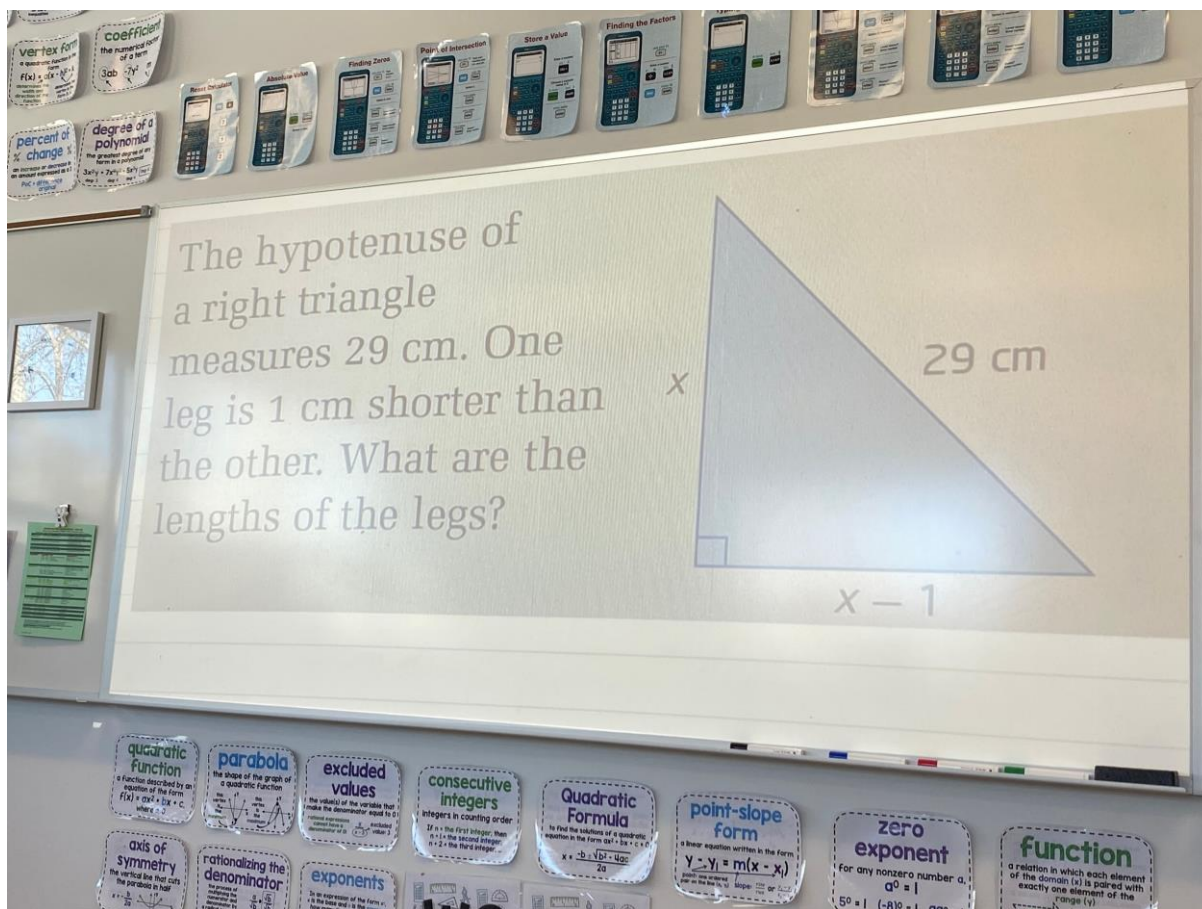
授業は事前にローレンとやりとりして、希望を出し、北海道を出発する5日前ぐらいに時間割が送られてきました。私は Art、General music、Math、Gym、ESL を取っていました。ローレンと同じ授業が Gym だけで心配もありましたが、みんないい人ばかりでたくさん友だちを作ることができました。最初はローレンが授業の教室までついてきてくれて、一週間ぐらいすると自分だけでも迷わなくいけるようになりました。



Art class 色鉛筆画や遠近法、人の描き方など専門的なことを多く学びました。作業を進めるときは美術教室だけでなく、自由な場所で描いても良かったのが新鮮でした。

General music バンドの演奏やコードなど作曲についての授業でした。バンドにいれてもらって、私の好きな「夜に駆ける」と他のバンドメンバーが提案した3曲を練習し、学校最後の日のランチタイムに演奏しました。初めてのバンドでの演奏で一番大変な授業でしたがみんな音楽が大好きな人たちで、好きな音楽の話で盛り上がり仲良くなれて楽しかったです。ランチもよく一緒に食べていました。特に日本のシティ・ポップがすごく人気で、真夜中のドア～stay with me～や Fly day chinatown などの曲をみんな歌っていました。音楽は世界共通言語だと実感しました。

Mathematics 最初は数学の用語が難しく授業が難しかったですが自分で英語の数学用語を学習してからは授業にもついていけるようになりました。授業の様子は教室の前にある大きなスクリーンに先生の板書が映され、練習問題などもスクリーンに映されたものを自分のスマホで撮影し、ノートなどの紙に解いてました。また章ごとに quiz と test があり、quiz は席を自由に立ち歩いて話し合っって問題を解くテストで、test はマークシートと記述のテストで cheat paper という公式や解法を書いた紙を持ち込みました。3月14日には pi day (π) で数字の書いてあるカップケーキが配られて面白かったです。









カナダでの生活

とても優しく楽しいホストファミリーで毎日美味しいご飯を作ってくれ、私の調子をいつも気にかけてくれました。一緒に日本のカレーライスを作って食べたりもしました。みんなに好評だったお気に入りの料理はタコスです。手巻き寿司みたいで楽しかったです。





ローレンがバイトでいないときは弟とゲームしたり、兄とドライブにいったり楽しませてもらいました。一ヶ月という短い期間の間にバンフとジャスパーの旅行に連れて行ってもらいました。カナディアン・ロッキーの広大な素晴らしい景色に本当に感動しました。

ローレンとは放課後に買い物やカフェに行ったり、家でドラマや日本のアニメ、一緒にア

クセサリーを作ったり、友達のホッケーの試合を観に行ったり毎日とても楽しかったです。一緒に週末にいったウォーターパークは二人ではしゃいでたくさんスライダーに乗って、帰ってくると疲れすぎて動けなくなったのもいい思い出です。





カナダの人はよく人の服装を褒めると感じました。私も知らない人から何度か服やネイルを褒められて、そこから仲良くなった人もいます。相手のいいところを見つけ関心を持てるのでとてもいい文化だと思いました。

日本のアニメがすごくカナダで人気があることを実感しました。アニメデザインのTシャ

ツヤキーホルダーを身に着けているひとが沢山いました。私もアニメや漫画が好きだったのでそれがきっかけで仲良くなった人もいました。

最後に

このカナダでの留学の一ヶ月間は人生で一番楽しかったです。毎日新しい体験がたくさんできてすぐに一ヶ月が終わってしまいました。

私はすごく明るくて積極的な人だと自分に言い聞かせてたくさんの人に話しかけて仲良くなることができました。留学を通して新しい自分に出会えた気がします。

正直にいうとカナダの一ヶ月でやり残したことがあるのでまた絶対にカナダに行きたいです。また仲良くなった人たちにはカナダ以外の国から来た人もたくさんいて、世界がすごく近くなった気がします。その人たちの国にもいつか訪れたいです。

まだあと一ヶ月、北海道でローレンの受け入れが残っています。カナダでたくさん楽しいことを体験させてもらったぶん、日本を存分に楽しんでもらえるようにがんばります。

最後にこの事業にかかわったすべての方に心から感謝します。ありがとうございました。

カナダでの生活を終えて

北海道釧路湖陵高等学校 1年

【応募したきっかけ】

以前から海外の人々と触れ合うことに興味があり、また英語を聞き取ったり話したりする力を向上させるために交換留学に参加してみたいという思いがあったので、応募しました。

【カナダでの生活】

カナダに留学に行く前まではもっと苦労することや大変なことが多いのではないかと考えていましたが、実際に留学に行くと、学校生活やホストファミリーとの生活も想像していた以上に楽しく、充実した一か月間を過ごすことができました。

1、学校生活について

私が通っていたポールケイン高校では、水曜日以外の曜日は80分の授業が4つあり、水曜日は60分の授業が4つありました。そのため毎日大体14時ぐらいに学校が終わるので、放課後に自分の好きなことをする時間が多くあることが印象的でした。そして、私は学校で美術、英語、リーダーシップ、ESL(第二言語としての英語)、コンピューターのクラスを選択していました。どの授業も日本と異なり、自分の取り組みたいことに取り組むことができたので日本の高校よりも自由な印象でした。その中でも特に印象に残っているクラスが、リーダーシップです。リーダーシップのクラスでは、近くの小学校に行き本の読み聞かせをしたり、映画の鑑賞をしたり、先生から与えられたお題について少人数のグループでディスカッションをしたりしました。日本では体験したことのない授業内容だったので、とても貴重な経験となったと思います。特に、毎週木曜日に小学校に行って本の読み聞かせをする際には、たくさん子どもたちとコミュニケーションを取ることができ、楽しく英語を学ぶことができました。このようにリーダーシップのクラスではよりたくさんの人々とコミュニケーションを取ることができるので、日本の高校にもリーダーシップの様な授業があれば、より多様な経験ができるのではないかと思います。

また、留学先で新たにできた友人は気軽に話しかけてくれたり、何かわからないことがあれば丁寧に教えてくれたりと、とてもフレンドリーでした。日本に興味を持っている友人も多く、自分が持っている箸などの日本文化特有の物を学校に持ってきて見せてくれたり、ランチタイムと一緒に折り紙をするなど新鮮な経験をしました。高校の先生方も、廊下などで

すれちがうと声をかけて下さったので安心して充実した学校生活を送ることができました。



2、ホストファミリーとの生活について

私が一か月間一緒に生活したホストファミリーはとても優しく、様々な経験をする事ができました。休日や、学校がいつもより早く終わる水曜日には、エドモントンやセントアル



バートの有名な観光地に連れて行ってくれました。例えば、金曜日から日曜日にかけてバンフという観光地に旅行に行き山に囲まれた美しい湖でスケートをしたり、ウェスト・エドモントン・モールという世界で 7 番目に大きいショッピングモールに行ったり、エドモントンのダウンタウンでショッピングをしたりと、とても充実した時間を過ごしました。特に、

バンフで見たカナダの自然は、事前に見た写真の何倍も美しかったので驚きました。私はカナダの学校で美術、英語、リーダーシップ、ESL(第二言語としての英語)、コンピューターのクラ



スを選択していました。平日は必ず家族みんなで夕食をとっていたので、その際にたくさんコミュニケーションをとり信頼関係を築くことができました。また、私は夕食後にパートナーと食器の片づけをしていたのですが、自分から積極的にホストファミリーの手伝いをする事は会話のきっかけになったり、信頼関係を築くことにつながるのでもとても大切なことだと思います。

【反省点】

応募してからカナダに行くまでの期間は書類を作成したり荷物を準備したりと、少し大変でしたが、実際にカナダに行って生活してみると事前の準備の大切さを痛感しました。その一つとして私はクレジットカードを持っていかなかったのですが、現地のほとんどの人々がクレジットカードを使用していました。現金でも問題はありませんでした。クレジットカードを持っていた方が便利だと感じる場面が多々あったので、事前に不安なことやわからないことがあれば、パートナーやホストファミリーに聞いておくべきだと感じました。

【まとめ】

私はこの一か月間で、コミュニケーションの取り方や積極的に行動することの大切さ、カナダの文化や自然、英語について本当にたくさん学ぶことができました。また今回のカナダでの生活を通して、一か月間やり遂げた達成感と共に、自分に自信を持つことができるようになりました。自分に自信を持てるようになったことは、これから様々な経験をしていく上でとても大切なことだと思います。日本に帰国した後、友人と再会した際にも明るくなったと言われ、留学前と留学後で変わったということが嬉しかったです。留学に行く前は不安なこともたくさんありましたが、いくつもの貴重な経験をし、楽しくカナダでの生活を終えることができ本当に良かったと思います。カナダで培った自信や力を、今後の様々な活動に活かしていけるように頑張りたいです。